

日遊協2013年ファンアンケート調査

「未経験者をホールに連れてきた」

1年間に42%もの人が実行

広報調査委員会が昨年10、11月に全国規模で行った「2013年パチンコ・パチスロファンアンケート調査（ホール来店客調査）」が、1月9日の第5回定例理事会での承認を受けて公表された。これは来店したお客様との対面調査で、従来の定点観測的設問のほか、「スリープ層が復帰した理由」「初心者をもホールに誘った経験」などが新規に加えられた。総じてレジャー志向型ファンの増加、依存問題への関心向上など、お客様の意識の変化が浮かび上がった。

調査にあたり、全国の日遊協会員ホール、並びに東京都遊技業協同組合と九州地区遊技業組合連合会、そしてご来店のお客様方に多大なご協力を賜った。

2013年ファンアンケート調査実施要領

- 調査目的と内容：今後の業界のあるべき方向性を探ることを目的に、ファンの特性、遊技実態、ニーズ等の動向変化を把握するための定点観測を行った。加えて、社会貢献活動等に対するファンの認識度、評価を分析した
- 実施時期：2013年10月下旬～11月下旬
- 調査対象：全国の日遊協加盟企業が有するホールの来店客。加えて、都遊協、九遊連加盟ホールの協力を得た
- 協力ホール：134ホール（43社）
- 有効回答：2370サンプル
- 回答者の属性：平均年齢44歳。若年層（39歳以下）47%、中年層（40・50代）31%、高年層（60代以上）22%だった。男女比は男性65%、女性35%。職業別では「勤め人」42%、「パート・フリーター」15%、「無職（リタイア含む）」11%、「自営・自由業」「専業主婦」各10%、「学生」3%

表1 プレーする目的 レジャー化への流れ続く

「暇つぶし」「ストレス解消や手軽なレジャー」などのレジャー志向派は64%（前回62%）、「小遣い稼ぎ」「生活費稼ぎ」などの実益追求派は17%（同20%）、「実益を兼ねるがあくまでレジャー」という中間派も17%（同15%）だった。軸足は実益よりレジャーとする傾向が近年強まる様子が見え、業界の健全レジャー化の方針が浸透しつつあるといえる。

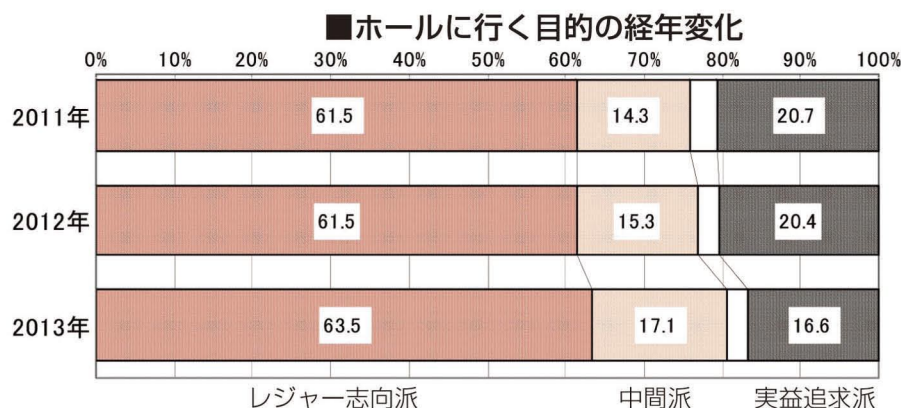


表2 パチンコかパチスロか 変わらぬ「若者のパチスロ」

「パチンコだけ」「おもにパチンコ」合わせて46%（前回45%）、「パチスロだけ」「おもにパチスロ」合わせて26%（同27%）、「両方半々」が27%（同27%）と、過去の調査とほぼ似ている。強いていえば「両方半々」が漸増、「パチンコ」派が漸減の傾向にある。また、男女とも若い年代ほど「パチスロ」派が増えている。

■パチンコ・パチスロのどちらで遊ぶか

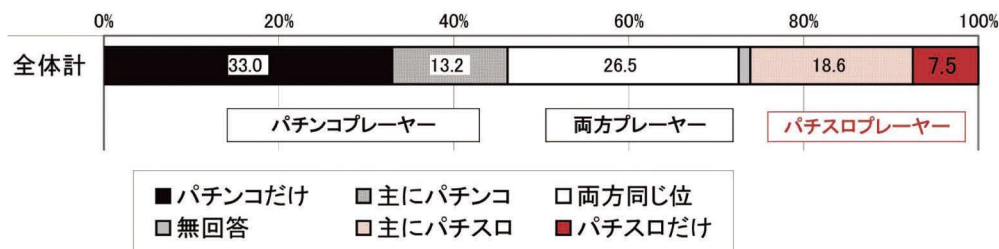


表3 通常台か低貸し台か 使い分ける人が増える

低貸し台中心のプレイヤーは「パチンコ」36%（前回30%）、「パチスロ」15%（同13%）とまだ多数派ではないが、通常台と使い分けている人は増えている。低貸し台プレイヤーはビギナーに多く、レジャー志向で低頻度、低額投資の人に多い。その意味で低貸し台の一般化が進んでいる。

■プレーするのは通常台か低貸し台か

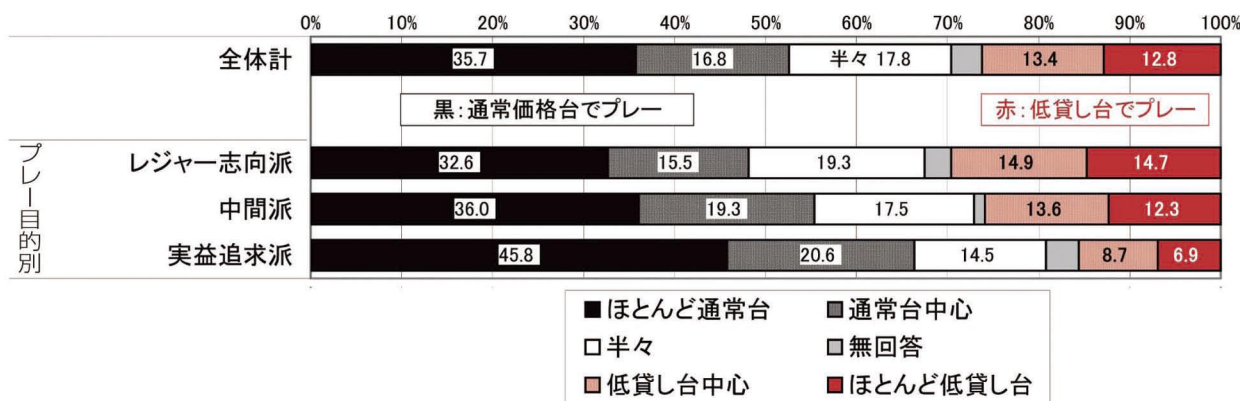


表4 手軽に安く遊べる台 必要な遊パチ ・ハネモノ

遊パチ・ハネモノでプレーする人は42%。男女とも50歳以上に多く、プレー目的が実益追求派の人でも35%おり、ファンのニーズをカバーするために必要な台になっている。なお、「通常台（遊パチ・ハネモノ以外）だけ」「通常台中心」のプレイヤーは51%。

■遊パチ・ハネモノ台でのプレー状況

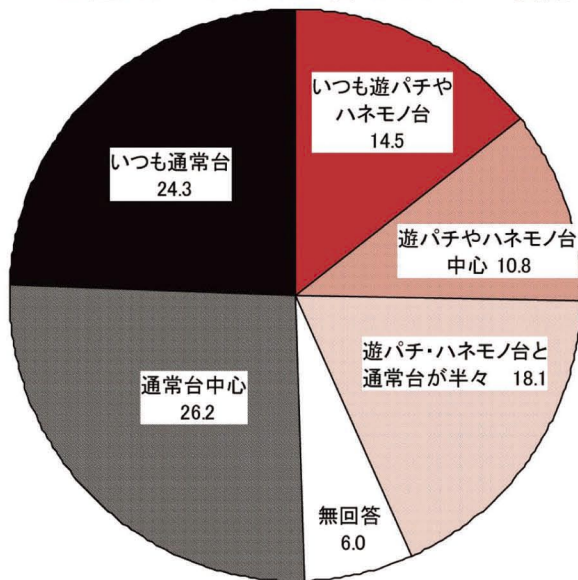


表5 来店頻度 6割近くが「週2回以上」

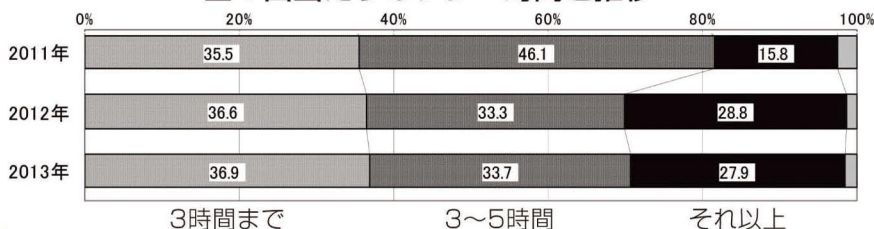
プレー頻度は平均週2.8回だった。「週2～3回」の人が25%と最多で、以下、「週1回」20%、「ほぼ毎日」19%、「週4～5回」15%と続く。「(ほぼ毎日を含む)週4回以上」の極めて頻度の高い人が3分の1を占める。「週2回以上」だと6割近く、「週1回以上」だとほぼ8割となり、高頻度の固定客が非常に多いことがわかる。高頻度の人は男女とも50歳以上の高齢層に多い。

■ホールへの来店頻度

調査年次		ほぼ毎日	週4～5回	週2～3回	週1回	月2～3回	月1回	2～3ヶ月に1回	半年に1回	年に1回	無回答	平均(回/週)	週2回以上プレーする人(累計)	週1回以上プレーする人(累計)
過去調査	2011年	19.9	14.2	24.6	20.9	12.0	3.0	1.6	0.9	1.2	1.8	2.9回	58.7%	79.6%
	2012年	16.7	14.2	24.3	23.2	11.6	3.9	1.6	1.7	1.5	1.3	2.7回	55.2%	78.4%
今回	2013年	18.5	14.6	24.6	20.0	12.1	3.5	2.2	1.2	1.6	1.7	2.8回	57.7%	77.7%
	(累計)		33.1	57.7	77.7	89.8	93.3	95.5	96.7	98.3	100.0			

表6 プレー時間 87%が3時間以上遊ぶ

■1回当たりのプレー時間と推移



1回当たりのプレー時間は平均4.5時間(前回4.6時間)。「30分」「1時間ぐらい」は極めて少なく、87%は3時間かそれ以上プレーしている。平均時間が最も長いのがパチスロの通常台プレーヤー(4.8時間)、最も短いのがパチンコの低価格台プレーヤー(4.3時間)となる。

表7 台選びのポイント 「演出」など4要素に集約

パチンコ、パチスロともに重視されているのは、これまでと同様「演出」「馴染みの機種」「大当たり確率」「連チャン」の4要素。低貸し台の場合は「安く長時間遊べる」の重要度が相当に高い。

■台を選ぶ際の重要度 (パチンコプレーヤーとパチスロプレーヤー)

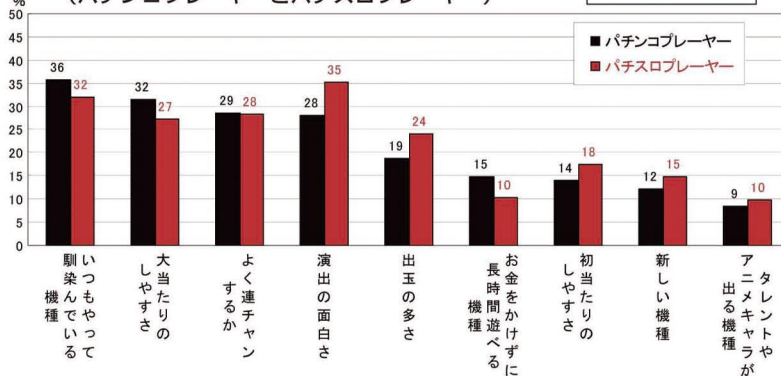
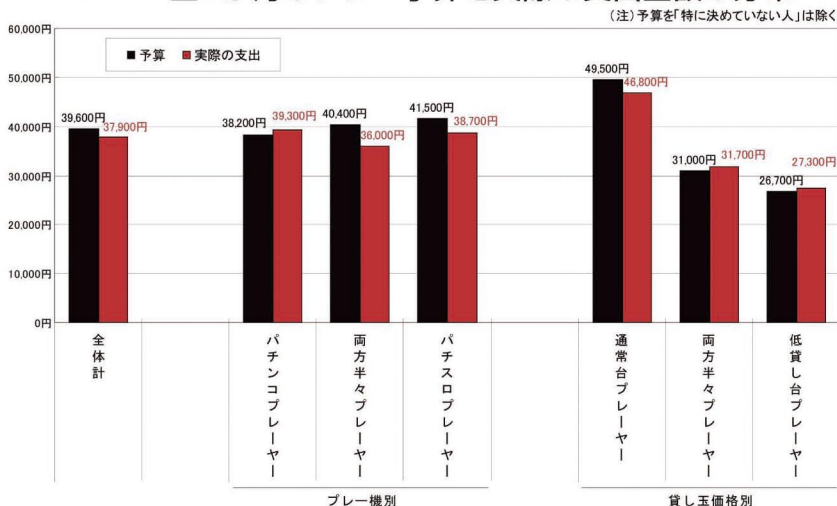


表8 1か月のプレー金額 平均予算は約4万円

■1か月のプレー予算と実際の支出金額の分布



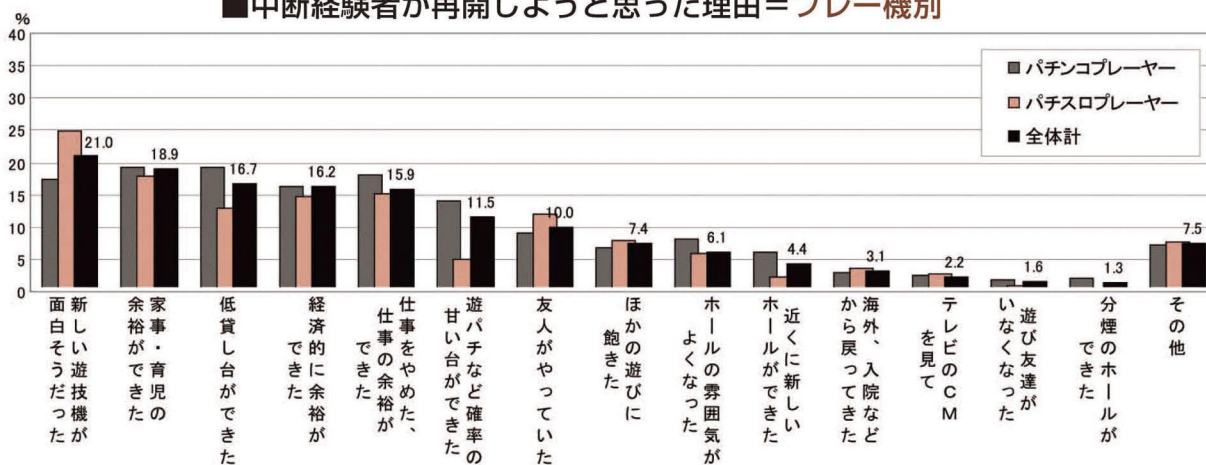
予算を「とくに考えていない」人は1割強しかおらず、考えている人の1か月の平均予算は全体で3万9600円。上限想定金額はパチンコ、パチスロともに「1～3万円まで」(33%)、「3～5万円まで」(23%)が中心。低価格プレーヤーに限ると「3万円まで」の人が3分の2を占める。予算を決めている人の実際の支出額は平均3万7900円で、予算額以下に収まっている。予算オーバーは少額予算の人に多く、それも数千円程度のオーバーが目立つ。全体に個々の経済力に応じた健全な楽しみ方が感じられる。

表9 中断経験者の再開

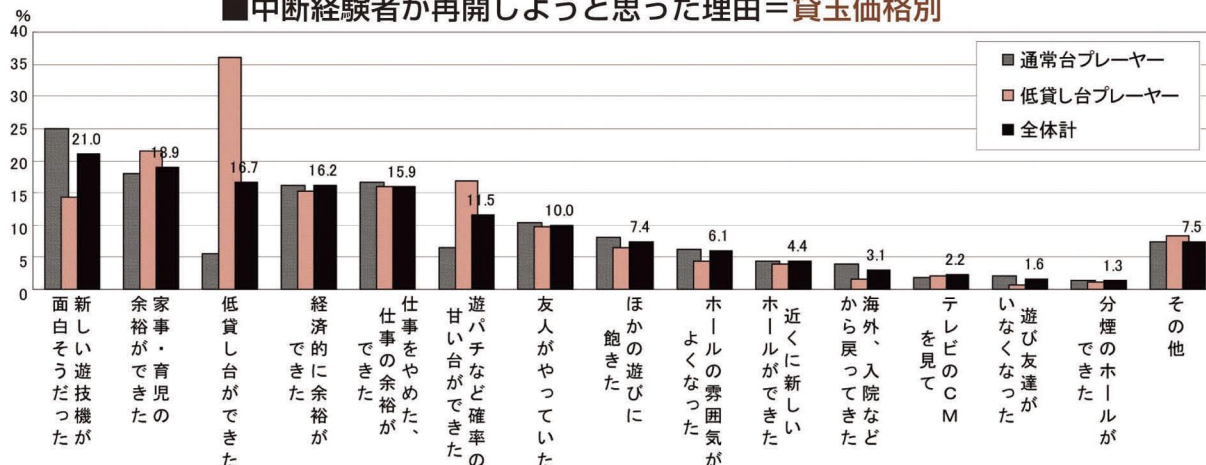
「新しい遊技機が面白そう」

1年以上プレーを中断した経験の人は、「何度もある」「1、2度ある」を合わせて37%だった。再開の動機は「新しい遊技機が面白そう」「家事・育児に余裕が出来た」の2つが大きく、以下「低貸し台」「経済的に余裕ができた」「仕事をやめた・仕事に余裕ができた」と続く。とくに「新機種」「低貸し台」など業界サイドの対策が再開の動機に効果的だった点が注目される。また、女性は家事・育児からの解放が動機として大きい、「低貸し台」「遊パチ」「友人がやっていた」の効果も大きい。ただし、今もプレーをやめたままの人は再開者の何倍もいると思われ、新規参入促進とともにやめた人の再開を促すことがファン人口拡大のための要件となる。

■中断経験者が再開しようと思った理由=プレー機別



■中断経験者が再開しようと思った理由=貸玉価格別



■中断経験者が再開しようと思った理由=男女別

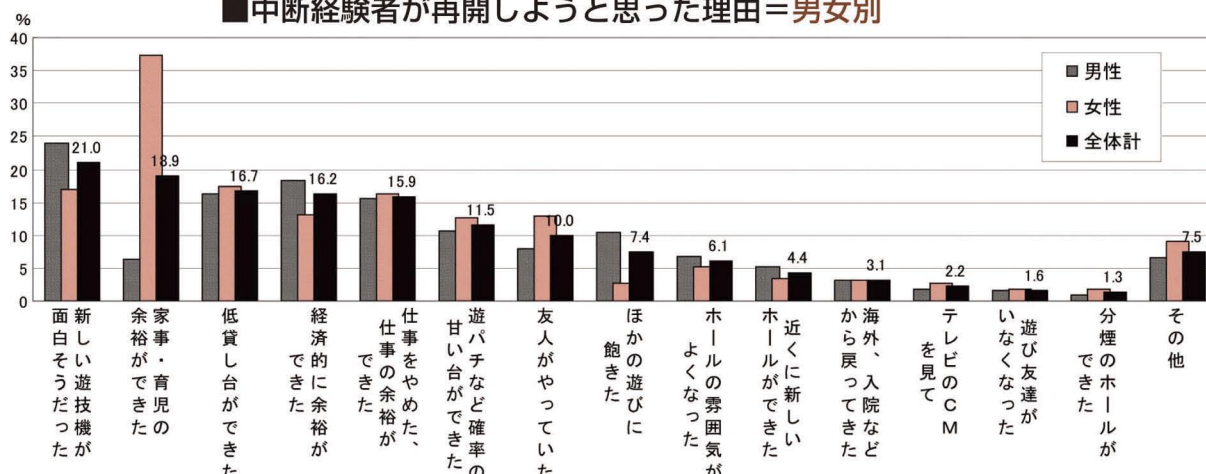


表10 未経験者をホールに誘った経験 誘いやすいと一応の及第点

パチンコ・パチスロの開始動機は経験者による誘導が多い。ここ1年位の間に、未経験者をホールに連れてきた経験のある人は42%もいた。また、今のホールは未経験者を誘いやすい環境かとの設問に、6割が及第点を与えた。ただし、最近のホールの改善ぶりを一般の人はあまり知らないと思われ、周知させる方策が必要となる。

■ここ1年位の間に、未経験者をホールに連れてきた経験のある人（ファン属性別）

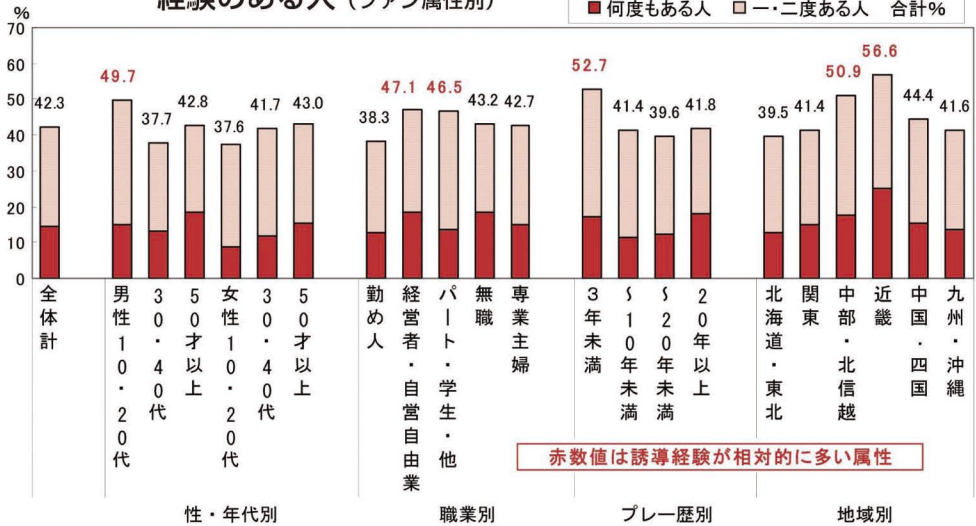
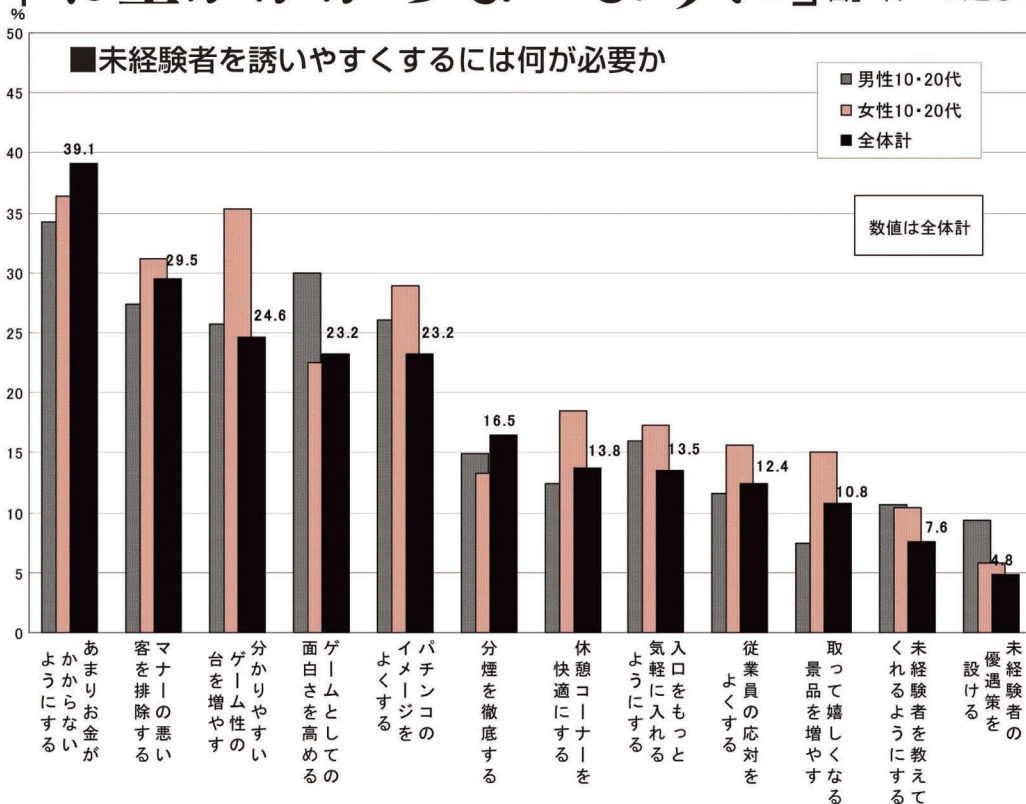


表11

未経験者をホールに誘いやすくする要件

「お金がかからないように」



「お金がかからないように」が4割弱でもっとも多く、「マナーの悪い客の排除」「わかりやすいゲーム性の台」「ゲームとしての面白さ」「イメージアップ」を含めた5項目がとくに必要な要件とされた。ホール、メーカー等業界一体となった取り組みが必要と考えられる。

来店者の喫煙 表12 禁煙化に根強い「抵抗勢力」

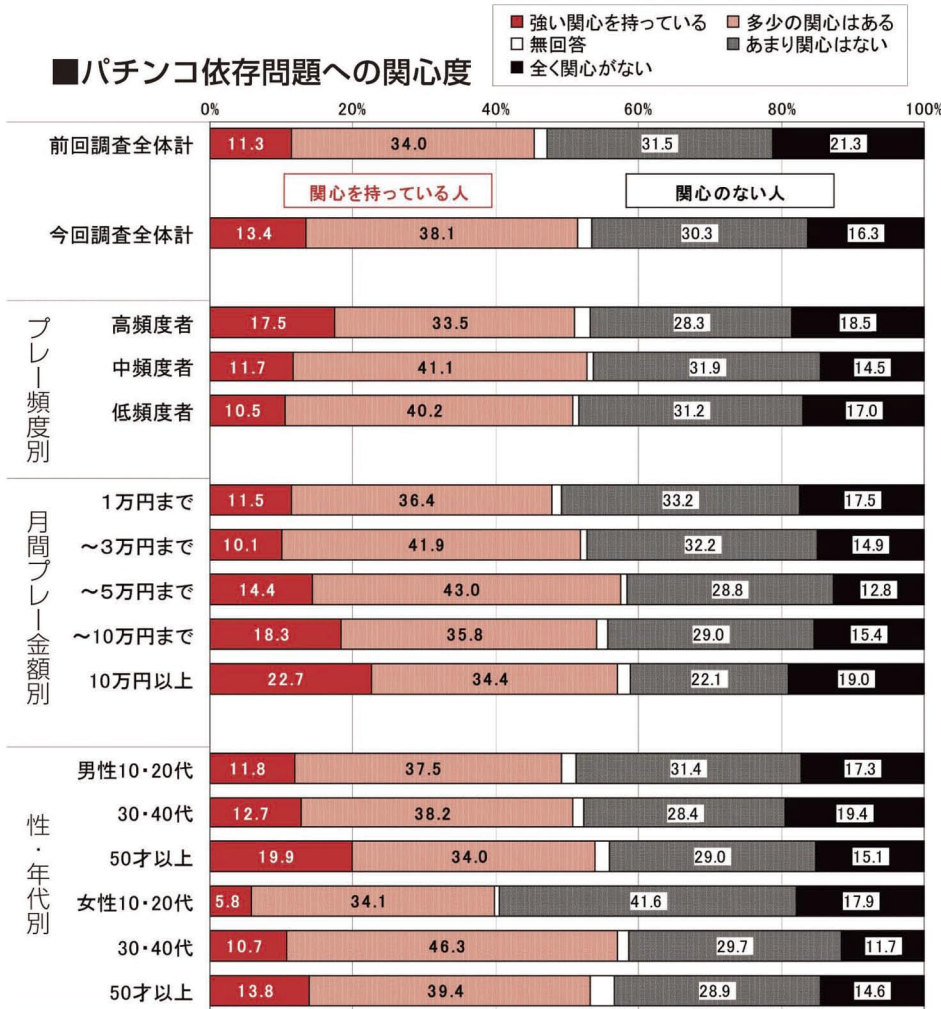
来店者の喫煙者率は前回とほぼ同じ62%（男性67%、女性53%）だった。JTの2013年調査では一般成人の喫煙者率は21%（男性32%、女性11%）なので、ホールでの喫煙者率は異常に高い。ホール全面禁煙化については、「賛成だが分煙程度でよい」27%を合わせた賛成派は52%。「絶対反対」32%、「反対だがやむをえない」14%を合わせた反対派は46%。ほぼ拮抗しており、過去の調査結果とあまり変動はない。

■ホール来店者の喫煙状況と推移（横計表示、%）

調査年次		喫う	たまに喫う	喫煙者率	やめた	喫わない	無回答
過去調査	2011年	58.8	2.9	61.7%	10.4	25.3	2.6
	2012年	58.2	3.9	62.1%	11.0	25.7	1.3
今回	2013年	58.5	3.1	61.6%	10.4	26.3	1.6

(注) 平成25年のJT調査では、一般成人の喫煙者率は男女計で20.9%（男性32.2%、女性10.5%）

表13 依存問題 過半数になった「関心派」



パチンコ依存問題について「強い関心がある」13%、「多少の関心がある」38%、合わせて一定の関心を持つ人は53%と前回（45%）より増えるとともに過半数になった。「強い関心がある」人は、どちらかというと来店頻度が高く、プレー金額が多く、年齢が高かった。相談機関のリカバリーサポート・ネットワーク（RSN）の認知度は47%で、前回（36%）より上がった。RSNを知ったきっかけは「店内ポスター」が73%と圧倒的に多かった。

表14 社会貢献活動への評価 「まずファンサービス」の声も

ボランティア活動、災害への義援金拠出、地域清掃や地域行事参加等、業界の社会貢献活動について、「業界規模の大きさから当然行うべき」「イメージアップのためにも行うべき」と賛同する意見が6割近くあった。一方で「まずファンサービスに努めるべき」との意見が34%ある。ファン及び社会はサービスと社会貢献の両立を期待しており、それが十分可能な業界になったと見られていると思われる。

